

図書館へ行こう！

梅雨真っ只中です。蒸し暑いお天気が続きますが、ちょっとしたひとときに読書で気持ちを鎮めて、充実した毎日を過ごしましょう。

先生方おすすめの1冊

英語科 稲田光一郎先生のおすすめ 宮部みゆき著『火車』



日曜日の朝は特に新聞のページをめくるのが楽しみです。平日の紙面にはない新刊本の書評欄があるからです。生物の進化や歴史の謎、また政治、経済、哲学、宇宙、芸能、スポーツなど、あらゆる分野の書籍に対する書評に目を通すだけで好奇心が刺激され、心が満たされた気分になります。

今回紹介する「火車」という作品のことを、そしてそのタイトルの読み方が「ひのくるま」や「ひぐるま」ではなく「かしゃ」であるということを知ったのは20年以上も前の毎日新聞の書評欄を通してでした。本書は、簡単に言えば「若くして背負わされた負債のために思わぬ人生を送ることを余儀なくされた若い女性が犯罪に手を染めるまでの苦悩と、その女性にたどりつくまでの本間俊介という刑事の心の動きを描いたミステリー小説」と言ってよいでしょう。社会問題を扱っているために中学生には少々敷居が高いかもしれませんが、高校生にとっては読みごたえのある作品だと思います。

成人法の改定により18歳で保護者の承諾なしで多額の金銭を借りることができるようになると、若い人にも金銭に関する正しい知識と判断能力が求められるようになります。本間刑事の遠い親戚である栗坂和也の婚約者が行方不明になったことを発端にして謎が深まっていくこの物語は、本間刑事が地道な捜査と大胆な想像力によって女性の正体を暴いていく過程を通して「多重債務」や「消費者金融」、「自己破産」といった、日本経済の「消費第一主義」の負の部分の根の深さを読者に伝えてくれます。

捜査の途中ではその存在自体に疑問を抱くことさえあった女性に本間刑事が初めて出会うラストシーンがとても印象的です。多くの人でにぎわうレストランの中でやっと見つけた彼女のもとへ本間刑事が一步一步近づいて行く場面は映画のワンシーンのようにいつまでも心に残ります。犯人逮捕という刑事としての使命を果たそうとする一方で「彼女がこれまで誰にも打ち明けることができなかった過去の出来事、そして彼女の心の叫びにこそ耳を傾けたい」という思いを抱く本間刑事。

犯人を追いつめる側の心理を克明に描いたこの場面では、作者の想い、すなわち「社会の仕組みの中から心ならずもはじき出された人々」の運命に寄り添う気持ち、そして「そのような人々」を生み出してしまう社会に対する義憤、そのどちらもが、静かに、しかし明確に、そして効果的に表現されているように思えてなりません。

「おすすめ」原稿は、生徒図書委員が先生方へ直接依頼するかたちで集めています。「おすすめ」で紹介された本は、すべて図書館で利用できます。

学院図書館には、宮部みゆきの著作が50冊ほどあります。映像化された話題の作品も多数。読んでみてくださいね。

宮部みゆき 昭和35年生まれ。『理由』直木賞受賞、『火車』山本周五郎賞、『名もなき毒』吉川英二文学賞、『模倣犯』司馬遼太郎賞、その他多数受賞



6月後半の図書館利用日

日	月	火	水	木	金	土	
利用時間(月～金)10:00～18:15						6/22	23
24	25	26	27	28 休館	29	30 休館	
7/1	2	3	4	5	6	7	

○6/23(土)と7/7(土)は13:00に閉館します。
○6/28(木)と7/10(火)は休館日です。